

Electric beauty 03



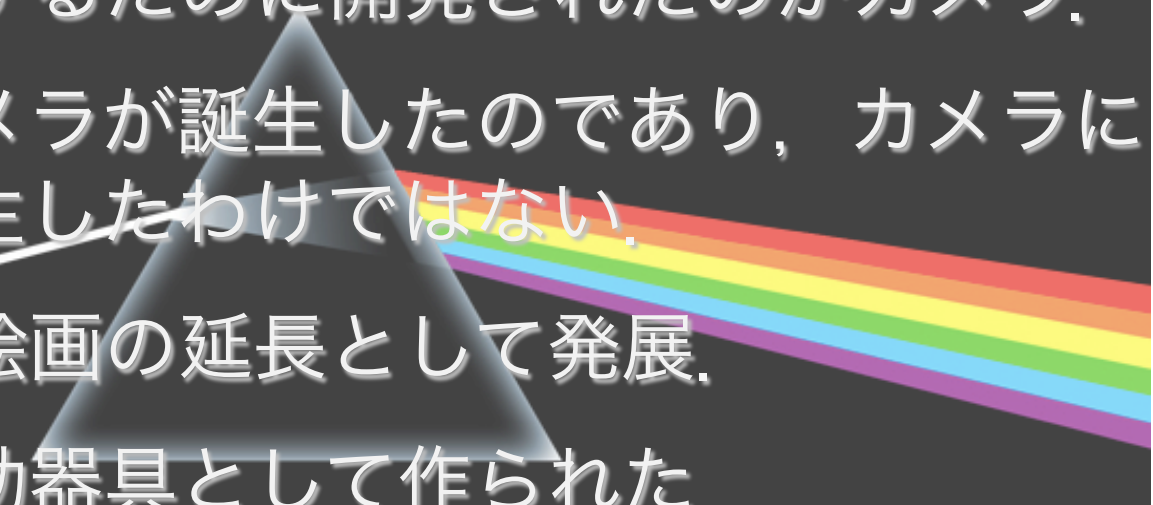
2013.10.18

現象の置換

1. 光によるイメージ
2. 現写真の原点
3. 現象を定着させる
4. Andreas Gursky
5. 写真を<作る>
6. 感覚的に捉える
7. 論理的にアウトプット
8. 整理と変換
9. 来週までの宿題

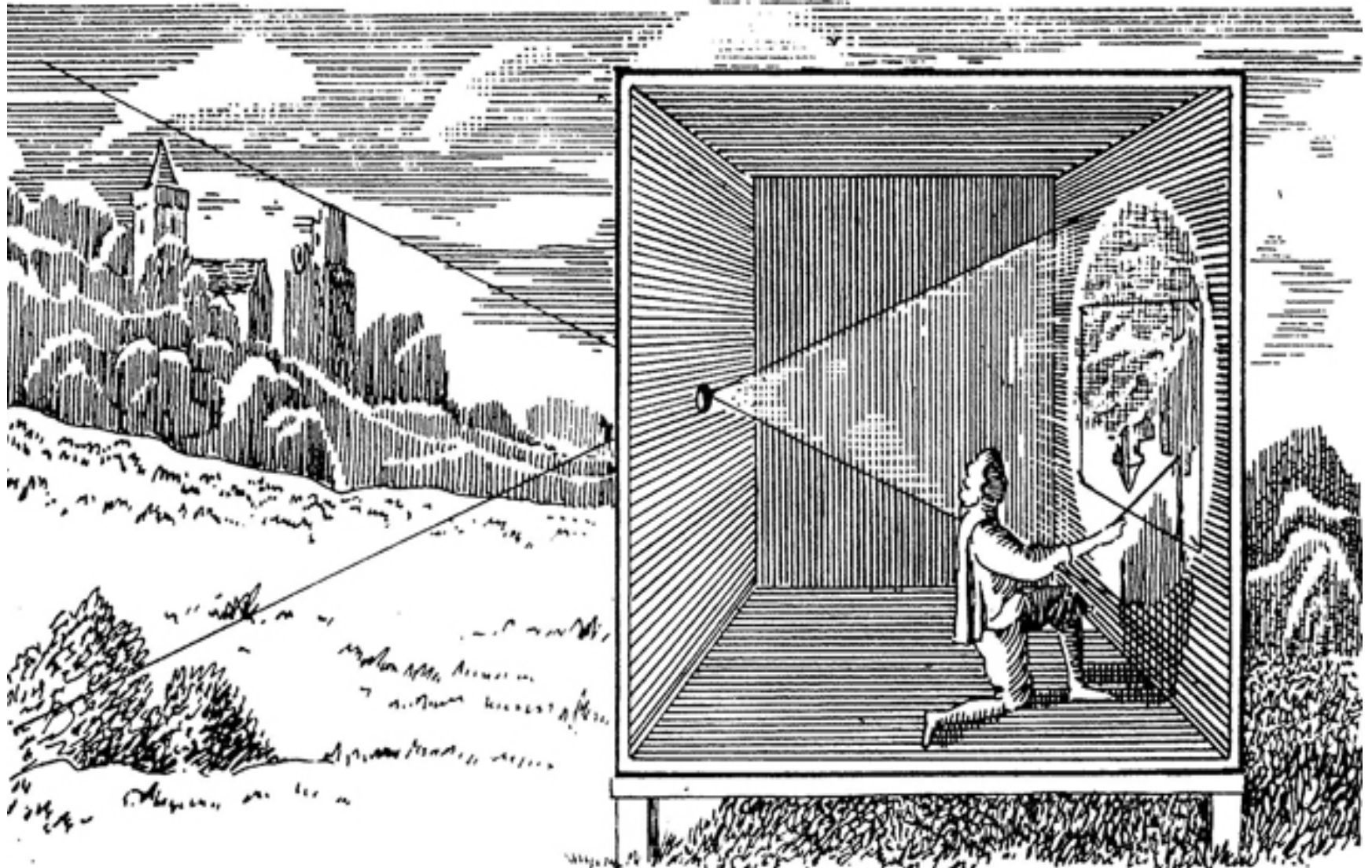


光によるイメージ



写真はカメラという機械の産物ではない。
光学現象を記録するために開発されたのがカメラ。
写真があってカメラが誕生したのであり、カメラによって写真が誕生したわけではない。
そもそも写真は絵画の延長として発展。
カメラは描画補助器具として作られた。
カメラ自体は＜記録する機械＞ではなかった。

Camera Obscura



Prospettiva



Albrecht Dürer *"Disegnatore della Donna Coricata"* (1525)

Camera Lucida



現象を何に定着させるか？

見えているものを<見えている通りに再現>しよう
とした結果としての写真.

光学現象をどのようにして残すか（記録するか）と
いう試行錯誤の差物としての写真.

感光剤や写真機の発展.

→ 電気を再現したり残すにはどうすればよいか？

Andreas Gursky



1955年生まれ.

ライプツィヒ出身.

デュッセルドルフ美術アカ
デミーでベッヒャー夫妻
に師事し写真を学ぶ.

2012年に写真作品として
史上最高額の430万ドル
で落札された.

"Paris, Montparnasse" (1993)



"99 Cent" (1999)



"Rhein II" (1999)



写真を＜作る＞

写真は元来、視覚情報のコピーでもなければ、記憶の記録でもない。

視覚情報を基に作られた記憶の模造と言える。

視覚情報を露光時間分の瞬間の中に封じ込めたものとも言えるが、それは見た記憶とイコールではない。

写真はカメラによって自動的に生成されるわけではなく、撮影した者によって作られるものである。

感覚的に捉える

電気を視る，聴く，嗅ぐ，味わう，触れるといったものとして，具体的に何が想定できるか。

見える電気，聞こえる電気，電気の匂い，電気の味，電気の触感とはどんなものが考えられるか。

動力として以外の，電気のあり方や美しさとは何か。

自然と人工物の両面から捉えてみること。

電気にまつわるマップを丁寧に作成する。

論理的にアウトプット

マップの作成は直感的にアイテムを羅列するのではなく、最初はランダムに選んでも、その後に一定のルールを決めて整理する。

そのルールの設定が重要。

類似／相似／相関／同義など、表面的ではない部分でアイテムを見極める観察を心掛ける。

マップは設計図とは異なるので、必要があれば何度でも修正すること。

変換と整理

実体のない＜現象＞に実体を与えるにはどのような工夫が必要か？

何をどのように変換し、それらをどう整理するかがポイント。

整理する際に、何と何を組み合わせるかもアイデアの練り上げには重要な意味を持つ。

論理的な手続き、厳密なルール設定を忘れないこと。

来週までの宿題

電気に限らず、何かしらの自然現象を任意で選択し、それを制御する仕組みを考え、図式化する。

実際に機能するかどうかは問わないが、極力厳密に設計してみることに。

図も精密であるに越したことはないが、設計図まで描けなければ、言葉で補足して、何がどうなるかがわかるようにする。

描けたらFacebookにアップする。